

令和4年3月1日

## プーチン大統領の核兵器使用示唆は言語道断だ

核兵器廃絶・平和建設国民会議  
(略称 KAKKIN)

事務局長 岩附 宏幸

2月24日、ロシアがウクライナに侵攻した。この行動はウクライナの領土と主権を侵害し、紛争の平和的解決を義務付ける国際法に反するもので到底許されるものではない。まさに暴挙であり、強く非難する。

そして許しがたいのは、プーチン大統領が同日に行った演説で「ロシアは世界で最も強大な核保有国だ。邪魔する者は誰であれ、歴史上で類を見ないほど大きな結果に直面するだろう」と述べ、7日のフランス・マクロン大統領との会談時に続いて、再度核兵器使用の可能性を匂わせたことである。

ストックホルム国際平和研究所の推計によると、2021年1月現在でロシアが保有する核弾頭の数に6255発で、アメリカの5550発を抜いて世界第1位である。

ロシアを含む核保有五大国首脳は1月、核戦争回避を最重要責務とうたう共同声明を発表したばかりだ。その中で、各国は「核戦争に勝者はなく、決して戦ってはならない」と強調し、核兵器の用途は「自衛目的と侵略の抑止、戦争の回避」に限られるべきだとして、軍拡競争や軍事衝突を避けるために対話を模索し続けることを表明していた。まさにあの声明は何だったのかとの思いを禁じ得ない。

事態は日々刻々と変化しているが、威嚇を含めたあらゆる形での核兵器使用を絶対に許してはならず、日本政府には各国と連携して全力で対応することを要請する。そしてロシア軍の即時撤退を強く求めるものである。

以上